

立山航空 125 円の初期使用例

永吉 秀夫



第4地帯あて航空便書状(料金 125 円) OSAKAHIGASHI 1952. 8. 1 → フランス

日本の航空切手は、航空郵便専用の切手ではありません。しかし第2次大戦後に再開された国際航空郵便の料金は妙に半端な額であったため、「航空郵便に使うのに便利な普通切手」として鳥や飛行機図案の普通切手が発行され、これらを収集家は航空切手と呼んでいます。

立山航空はきじ航空を引き継いで、1952年2月に発行された国際航空使用の航空切手です。下に載せた当時の航空便料金表(1951年12月1日改訂、書状・葉書共通)に示すように、55円以上の4つの料金に対応しています(立山航空の他の2額面は第4・5地帯あて印刷物料金)。初めは銭単位を示すゼロつきで発行されましたが、半年足らず後の7月1日にゼロなしの円単位切手に改版されました。上のカバーは、その円単位125円の1枚貼り適正使用例です。発行ちょうどひと月後の8月1日に差し出され、大阪東局の欧文楡型印が鮮明に押されています。円単位立山航空の発行に先立ち同年4月から欧文三日月印の使用が始まったので、円単位立山航空の欧文楡型印押しはあまり見かけません。

立山航空貼りカバーは偽造印押しが心配ですが、高価でない125円貼りのようにものについては、偽造品の可能性は小さそうです(不心得者が練習用として作ったという可能性はありますが...)。

	特別地帯	第1地帯	第2地帯	第3地帯	第4地帯	第5地帯
対象地域の例	沖縄	東アジア	東南アジア	米国	欧州	中南部アフリカ、南米
料金	25円	40円	55円	80円	125円	160円
対応切手	塔航空	塔航空	立山航空	立山航空	立山航空	立山航空